

分析値の種類

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
総頻度比率	出現単語比率	総出	センテンス比率	同頻度数比率	センテンス否定率	キーワード比率	補完単語比率	1頻度単語比率	中心キーワード比率	中心補完単語比率	中心1頻度単語比率	第3単語重複率	第1単語頻度比率	第2単語頻度比率	第3単語頻度比率	第4単語頻度比率
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
体言率	全体名詞率	普通固有名詞率	除数詞名詞率	普通名詞率	非分類普通名詞率	副詞比率	用言比率	形容詞比率	動詞比率	付属語率	助動詞率	助詞率	センテンス頻度最大値	センテンス頻度平均値	センテンス用言率	単語回帰値

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
体言率	用言率	付属語率	テーマ設定力	テーマ説明力	テーマ補足力	文章整備力	単語構成力	センテンス構成力	センテンス主張力	行動表現力	主張構成力	論理展開力	主張力	主張補足力	論理強制力	平均
18	19	20	21													
SD	MAX	MIN	MAX-MIN													

分析値は、異なる文章でも同じ様に見比べられるように計算している。統計でのターゲットを求めるのと同じAV±2SDの計算方法を使うが、言語分析では、2SDではなく、1SDで計算している。AV±SD内の平均をターゲットとした。

分析値は、比率、補正比率、分析値、補正分析値と計算される。補正比率は、比率中央値が1になるように計算し、分析値の適正値を5に設定している。分析補正値は、各分析値が正規分布するように計算されている。補正分析値が求められるまでに3つの乗数が求められて、この乗数が固定されている。乗数は、半年に1度計算され、表現変化の指標になっている。

2014年現在で、分析値は34種類が設定されている。その中で凡そ常に正規分布を示し、文章の性質を固定できる分析値を選んでいる。それが、16分析値となっている。

各分析値は、分析値の種類単位でターゲットを求めている。基準値(理想値)を5としているが、その理想値は分析項目単位で計算されているので、16分析値のすべてが5.0になる文章が現される確率は非常に低い。